

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 V (4 B)
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Schaepe, Richard H.・河合忠仁・三浦良邦 (1998) 『時事英語で楽しく学ぶ英文法-The Pleasure of Reading, Thinking & Writing-』, 松柏社, 東京, 自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 原稿を見ずに、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。 2. 毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を聞いて、内容を理解することができる。 3. プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に着けて、身振り手振りやスライド資料などを用いて発表ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	原稿を全く見ずに、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。	ところどころ原稿を見れば、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。	最初から最後まで原稿を見なければ、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができない。		
評価項目2	メモを取りながら、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解し、内容に関する質問ができる。	メモを取りながら、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解することができる。	メモを取りながらでも、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解することができない。		
評価項目3	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に着けて、身振り手振りやスライド資料などを用いて発表ができる。	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現は身に着けているが、身振り手振りやスライド資料は効果的に使うことができない。	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に着けておらず、身振り手振りやスライド資料などを用いた発表も行つことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文読解、英作文、口頭発表の作業を通じ、総合的な英語力の向上を目指す。本講義では特に、英語プレゼンテーションの技能に焦点を当てている。具体的には、与えられたテーマや自分のことについて、スライド資料等を用いながら、毎分120語程度の速度で、2分程度の口頭発表ができることを目標とする。また、英語IVに引き続き、教科書を用いた英作文演習も行っていく。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、英語プレゼンテーションに必要な技能を身に着ける。基本的な流れは下記の通りである。 (1) 目標とする技能に関する教員によるデモンストレーション。 (2) 教科書の英文を読み、テーマに関する基礎知識を身につけるとともに、本文で使用されている文法事項を身につける。 (3) 本文の内容について、発表の準備を行う。 (4) 学生による口頭発表 (5) 発表の評価と議論 英語IVで行った英作文や発音の訓練も引き続き行っていく。 なお、授業の進度や内容は、学生の理解度等を見て変更する場合もある。				
注意点	60点を合格点とする。学期末の成績は、英語での口頭発表60%、英作文課題20%、授業態度10%、小テスト10%で評価する。各自4~5回の個人発表と、2回のグループ発表を予定している。				
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	授業ガイダンス Unit12	授業の進め方と評価の仕方について説明する。関係詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		2週	Unit12 アイコンタクト	関係詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		3週	Unit13 アイコンタクト	関係副詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		4週	Unit13 アイコンタクト	関係副詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		5週	Unit14 ジェスチャー	過去分詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		6週	Unit14 ジェスチャー	過去分詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		7週	Unit15 ジェスチャー	動名詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
	8週	Unit15 視覚的補助	動名詞を使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。		
	4thQ	9週	Unit16 視覚的補助	同格のthatを使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
10週	Unit16 視覚的補助	同格のthatを使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。			

	11週	Unit17 構成	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。 発表の基本的な構成の作り方を理解し、発表を通じて身につける。
	12週	Unit17 構成	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。 発表の基本的な構成の作り方を理解し、発表を通じて身につける。
	13週	Unit18 質疑応答	仮定法過去完了を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	14週	Unit18 質疑応答	仮定法過去完了を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	15週	Unit19 質疑応答	比較級を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	16週	最終プロジェクト 授業アンケート	最終プロジェクトの発表と授業アンケート

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

### 評価割合

	試験	発表	小テスト	態度	英作文課題	その他	合計
総合評価割合	0	60	10	10	20	0	100
基礎的能力	0	60	10	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0